

2019年度

事業報告書

自 2019年4月 1日

至 2020年3月31日

公益財団法人日本財団学生ボランティアセンター

目 次

I. 法人の概況	2
II. 管理事業	3
1. 役員及び評議員	3
2. 学生委員会	3
3. 会議	3
4. 規程の制定等	6
5. 届出・登記事項	6
6. 事務局	7
III. 事業の実施状況	8
【公益目的事業】	8
1. Gakuvo Style Fund	8
2. 大学等連携ボランティア関連講座	10
3. 学生ボランティア派遣	27
4. セミナー／シンポジウム	34
5. インターンプログラム	35
6. 教育活動支援	36
【その他センターの目的達成に必要な事業】	37
1. 情報発信	37
2019年度事業報告における付属明細書	42

I. 法人の概況

1. 設立年月日 2015年3月11日

2016年12月15日付けで公益認定申請書を提出し、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（平成18年法律第49条）の規定に基づき、2017年6月1日に認定を受け、公益財団法人となった。

2. 定款に定める目的

この法人は、夢を描くことが最大の社会貢献となる若い学生の力を活かすため、学生ボランティア活動の支援を通じて、時代の一步先を目指す次世代を担う人材を育成するとともに、本邦及び海外の学生が行う公益活動への情報提供やサポートを行うことで、国内外の公益活動の活性化に寄与し、もって青少年の健全な育成と市民活動が日常となる、より良い社会の形成に資することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 学生ボランティア活動の支援
 - (2) 学生ボランティア活動を促進するための機会提供
 - (3) 学生ボランティア活動に関する情報の収集・発信
 - (4) 学生ボランティアのスキルアップ推進
 - (5) 学生ボランティアのネットワーク構築・運営
 - (6) 各種刊行物等の販売
 - (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 各号の事業は、本邦及び海外において行うものとする。

4. 所在地 東京都港区虎ノ門1-11-2（日本財団第二ビル）

5. 基本財産の額

取得価額	時価評価額	差異
3,000,000	3,000,000	0

6. 行政庁 内閣府

7. 役員に関する事項

II. 管理業務の1. 役員（理事・監事）及び評議員を参照

8. 職員に関する事項

II. 管理業務の6. 事務局を参照

II. 管理業務

1. 役員（理事・監事）及び評議員

(1) 役員

2020年3月31日現在の役員は、別表1「役員名簿」(38頁)のとおり、理事12名(会長1名、常務理事2名、理事9名)、監事2名である。

役員の異動は、古川秀雄理事が退任し、新理事として澤田佳彦氏が2019年6月27日付けで就任した。

(2) 評議員

2020年3月31日現在の評議員は、別表2「評議員名簿」(39頁)のとおり、5名である。

2. 学生委員

第16回理事会で選任された学生委員は、別表3「学生委員名簿」(40頁)のとおり6名である。

3. 会議

(1) 理事会

①第16回理事会

時 期：2019年6月12日(水) 14:40～15:45

場 所：日本財団ビル第8会議室

決議事項：

第一号議案 2018年度事業報告の承認

第二号議案 2018年度決算の承認

第三号議案 理事の退任について

第四号議案 理事の報酬について

第五号議案 理事及び監事の候補について

第六号議案 定時評議員会 招集の決定

第七号議案 学生委員会委員の選任

②第17回理事会

時 期：2019年7月1日(月) 書面決議

方 法：一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第197条において
準用する同法第96条の規定に基づく決議の省略に基づく理事会

決議事項：

第一号議案 常務理事の選任

③第18回理事会

時 期：2020年3月3日(火) 11:00～11:58

場 所：日本財団ビル第8会議室

決議事項：

- 第一号議案 Gakuvo Style Fund事業の廃止、内閣府
公益認定等委員会への変更認定申請および規程第13号
「学生が行う活動に対する資金援助に係る実施規程（Gakuvo Style Fund規程）」の廃止について
- 第二号議案 2020年度事業計画及び予算について

(2) 評議員会

①第8回評議員会

時 期：2019年6月27日（木） 12:50～13:55

場 所：日本財団ビル第8会議室

決議事項：

- 第一号議案 2018年度事業の報告
- 第二号議案 2018年度決算書の承認
- 第三号議案 理事の退任について
- 第四号議案 理事及び監事の選任
- 第五号議案 理事の報酬について
- 第六号議案 その他

(3) 学生委員会

学生ボランティア支援に際し、不可欠なのは学生自身の視点である。その視点から学生ボランティアのニーズを吸い上げる目的で、2019年度学生委員会を発足させた委員は6名で、センター実習生、大学ボランティアセンター学生スタッフ、地方大学在籍者、留学生、センター事業参加者などが選任された。

委員会を5回開催し、第18回理事会においては、センター事業に対して委員会での検討をもとに提案をまとめた報告書を提出した。

①第1回委員会

日 時：2019年6月15日（土） 16:30～19:00

場 所：センター6階会議室

参 加 者：委員6名、職員2名

- 議事要旨：
- ・委員へセンター設立趣旨、事業概要説明と質疑応答
 - ・各委員より自己紹介（ボランティア活動を行う動機を含む）
 - ・センター事業の良い点や改善点、センター事業に限らない学生ボランティア全般において委員会で議論すべき点について

②第2回委員会

日 時：2019年8月16日（金） 15：30～18：20

場 所：センター6階会議室

参加者：委員5名、職員2名

議事要旨：
・これから重要となる社会問題を踏まえたセンターへの提案について意見交換
・理事会への提案に向けたスケジュール確認
・次の開催場所と内容について意見交換

③第3回委員会

日 時：2019年11月3日（日） 10：00～15：00

場 所：センター6階会議室（*）

参加者：委員6名、職員1名

議事要旨：
・委員が参加したセンターの災害ボランティア派遣について意見交換
・センターへの提案内容についての意見交換
*第2回委員会では、第3回委員会を神戸市とする予定だったが、台風15号及び19号の被害とセンターのボランティア派遣実施を受けて、変更した。委員が11月2日（土）に実施された令和元年台風15号／19号ボランティア関東第6陣に参加して、翌日にセンターで実施することとした。

④第4回委員会

日 時：2020年2月8日（土） 13：00～16：00

場 所：センター6階会議室

参加者：委員4名、職員1名

議事要旨：センターへの提案内容についての意見交換

⑤第5回委員会

日 時：2020年2月18日（火） 13：00～16：00

場 所：センター6階会議室

参加者：委員4名、職員1名

議事要旨：センターへの提案内容の決定

（4）学生ボランティア活動支援に関する検討委員会

昨今における学生の社会貢献活動を取り巻く環境が著しく変化している状況に鑑み、より有効的な支援制度を設計すべく委員会を立ち上げ、検討を行った。

①第1回検討委員会

日 程：9月9日（月） 18:00～20:00

場 所：AP虎ノ門

参 加：7名 職員 4名

議事要旨：・センターの事業について
・委員の取り組みについて

②第2回検討委員会

日 程：9月26日（木） 18:30～20:30

場 所：AP虎ノ門

参 加：5名 職員3名

議事要旨：・現在の学生が置かれている状況について
・学生ボランティアの普及、定着に向けての課題について

③第3回検討委員会

日 程：10月18日（金） 18:30～20:30

場 所：AP虎ノ門

参 加：6名 職員 3名

議事要旨：・具体的なプログラム、事業の検討、提案について

4. 規程の制定等

規程13号 学生団体が行う活動に対する資金援助に係る実施規程（Gakuvo Style Fund規程）の廃止

5. 届出・登録事項

(1) 内閣府へ提出

- ・役員変更届
- ・「2018年度事業報告等」
- ・事業変更認定申請
- ・「2019年度事業計画書等」

(2) 登記事項

- ・役員変更登記

6. 事務局

(1) 機構

2020年3月31日現在における事務局の機構は、別表4（41頁）のとおり、2部である。

(2) 人員

2019年度は、職員に異動はなく、契約職員は新規に1名を追加、契約満了で1名が終了し、2020年3月31日現在における職員は1名、契約職員は4名である。

Ⅲ. 事業の実施状況

【公益目的事業】

学生が行うボランティア活動を支援するため、資金協力、スキルアップセミナー、ボランティア派遣、教育活動支援など幅広い事業を実施した。

なお、各事業の報告については、次のとおりである。

1. Gakuvo Style Fund

本事業は、ボランティアとして、単に誰かの役に立つだけではなく、活動をして自らが成長し、社会へはばたく人材を育成することを目的として設立した事業である。「世界をよくする」という大きな目的のもと、具体的な実施計画を持ち、実施する力を持つ団体を対象に、以下の3コースを設定して、学生ボランティア団体に対して資金協力を行った。また、単なる資金提供に終わることなく、プレゼン審査会、活動報告会などを実施し、全国の学生ボランティア団体のネットワークの構築を併せて図った。

なお、本事業は明治学院大学とパートナーシップを結んだ上で実施し、運営については、本大学とセンターが事務局としての役割を担った。

Collabo（こらぼ） 協力金：1活動につき200,000円まで
自分の大学だけにとどまらず、他の大学の学生団体、さらには企業、行政、NPO、スポーツ団体などと「コラボ」することで、新たな活動の可能性に挑戦する学生向け。

Yurubo（ゆるぼ） 協力金：1活動につき100,000円まで
初めの一步を踏み出すキッカケボランティア活動。まだまだガッツリ系ではなく、「ゆるくボランティア活動を始めたい」という学生向け。

Bacabo（ばかぼ） 協力金：1活動につき300,000円まで
活動を行う地域で発生している課題解決にどっぷりとつかり、「がむしゃら」&「ディープ」に活動している学生向け。

Gakuvo Styleとは・・・

一般のボランティアとは異なり、ボランティア活動を通してボランティア自身が、日常生活の中では意識していなかった社会問題に気づき、その解決を模索し、行動に移すことによってボランティア自身が成長していくプロセス、およびその成長に重きをおいたボランティアの姿を指す。もちろん、成長するだけではなく、一般のボランティア同様、社会問題を改善していくことも重要である。

(1) 第5回Gakuvō Style Fund

① 活動報告会

採択団体が協力金を活用した活動について振り返り、互いに共有すると共に、事務局からのフィードバックやゲスト講師による講演から、今後の活動に活かすことができるヒントを得る機会として開催した。また、採択団体同士のネットワーク構築の場にもなった。

ア. 内 容：事務局からのフィードバック、Colla-vō採択団体「D o f o r S m i l e @ 東日本」プロジェクト 明学・大槌町吉里吉里復興支援プログラム、Yuru-vō採択団体「わかっか」、Bacca-vō採択団体「芝園架け橋プロジェクト」による活動報告、グループワーク、ゲスト講師による講演
※活動期間中における事務局とのやり取りや、完了報告書の内容等に鑑み、事務局にて選定した。

イ. 講 演：福井 裕晋 氏（伊能社中 元代表者）
井上 昌善 氏（同協力者 元神戸市立伊川谷中学校教諭）
第1回および第3回Gakuvō Style Fund採択団体の特定非営利活動法人伊能社中の福井氏および伊能社中の活動協力者である井上氏から、当時実施したICT教育を用いた地域の防災に関する取り組みについてお話いただき、活動者とその活動への協力者の2つの視点で活動の成果と課題を振り返るパネルディスカッションを行なった。

ウ. 開 催 日：2019年5月19日(日)

エ. 参 加 者：第5回Gakuvō Style Fund採択団体27団体

オ. 場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター

(2) Gakuvō Style Fund 2019

① 募集

センターのホームページやSNSなど、インターネット上及び全国にある大学のボランティアセンター等にポスターや募集要綱を送付して募集した。

ア. 募集期間：2019年5月7日(火)～5月21日(火)

イ. 応募団体数：Colla-vō 18団体（2,890,000円）

※Yuru-vō、Bacca-vōは休止とした

② 審査方法

ア. 書類審査

応募情報を元に、社会への貢献度、独創性、企画力、実施可能性、学生らしさ、申請コースへの適応度などといった観点から事務局にて実施した。

- a. 実施期間：2019年5月22日(水)～6月5日(水)
- b. 通過団体：Collavo 6団体(1,170,000円)

イ. 最終審査会

書類審査の結果に鑑み、審査委員4名による審査会にて最終採択団体を決定した。

- a. 開催日：2019年6月29日(土)
- b. 場所：明治学院大学ボランティアセンター
- c. 採択団体：Collavo 5団体(880,000円)

各コースの採択団体内訳は表のとおりである。

(単位：円)

団体名	活動場所	活動内容	協力金額(円)
アフリカ医療研究会	ザンビア	ストリートチルドレン保護施設での衛生教育と栄養教育のワークショップ	200,000
Japanesia	ミクロネシア	処理されずに残っている廃タイヤと現地の伝統的な刺繍を用いたサンダルづくり	200,000
東北大学災害伝承プロジェクト もしとさ	高知県 須崎市	東日本大震災と向き合ってきた学生が、防災の知識を伝えるイベントを開催	200,000
インドネシアバリ島支援団体AI	インドネシア	ゴミ問題についての環境教育ワークショップ	200,000
ICT48	岩手県 岩手郡 葛巻町	子どもを対象としたICT教育	80,000

2. 大学等連携ボランティア関連講座

本事業は、大学の教育力を広く拡充し、学生のボランティア活動及び社会参画の推進を図る講座やプログラムを大学等と連携して実施した。これは、学生時代のボランティア活動をはじめとする社会参画が、全人的な人間成長に寄与するというセンター設立当初よりの考え方に基づいており、教育改革に積極的な大学やその関係機関と協力協定を締結するなど、協力関係を構築した上で進めている。

(1) 協定締結について

2020年3月31日現在で大学51校、短期大学1校、大学コンソーシアム1団体と協定を締結している。なお、大学コンソーシアムひょうご神戸には大学等40校が加盟しており、2019年度までで合計92校との協力関係が構築された。2019年度の大学等との新規協定締結は、5校であった。

(五十音順)

No	大学名	締結先	締結日	新規
1	愛知淑徳大学	コミュニティコラボレーションセンター	2014年10月 1日	
2	青山学院大学	ボランティアセンター	2017年 4月 1日	
3	亜細亜大学	全学	2017年 5月23日	
4	茨城大学	全学	2019年11月 1日	○
5	岩手大学	三陸復興・地域創生推進機構	2017年10月31日	
6	追手門学院大学	全学	2013年 3月 1日	
7	大阪大学	大学院ビジネスエンジニアリング専攻	2012年11月 1日	
8	大阪府立大学	ボランティアセンター V - s t a t i o n	2011年 5月 1日	
9	岡山大学	全学	2018年 7月17日	
10	お茶の水女子大学	全学	2017年 2月23日	
11	嘉悦大学	全学	2011年 7月 1日	
12	関西国際大学	全学	2017年 4月 1日	
13	神田外語大学	全学	2018年 2月 1日	
14	京都産業大学	全学	2017年 4月 1日	
15	熊本学園大学	ボランティアセンター	2017年 4月 1日	
16	熊本大学	熊本創生推進機構	2019年 8月 1日	○
17	公立鳥取環境大学	全学	2018年 5月 1日	
18	埼玉工業大学	全学	2018年 4月 1日	
19	順天堂大学	スポーツ健康科学部 さくらキャンパス学生部	2011年12月 1日	
20	聖学院大学	全学	2017年12月 1日	

No	大学名	締結先	締結日	新規
21	成蹊大学	ボランティア支援センター	2017年 4月 1日	
22	星槎大学	全学	2017年 4月 1日	
23	聖心女子大学	全学	2014年 3月 1日	
24	摂南大学	全学	2017年 4月 1日	
25	大正大学	全学	2017年 7月 1日	
26	高崎健康福祉大学	全学	2017年 4月 1日	
27	千葉大学	国際教養学部	2012年 3月 1日	
28	中央大学	学生部	2014年 3月 1日	
29	津田塾大学	学外学修センター	2017年 4月 1日	
30	東京海洋大学	全学	2012年 5月 1日	
31	東北大学	高度教養教育・学生支援機構	2017年12月21日	
32	東北福祉大学	総合マネジメント学部	2012年 4月 1日	
33	東洋大学	全学	2017年 4月 1日	
34	徳島文理大学	全学	2017年10月 1日	
35	常葉大学	全学	2019年12月16日	○
36	鳥取大学	全学	2018年 5月 1日	
37	長崎大学	全学	2019年 4月 1日	○
38	新潟青陵大学	全学	2017年 7月 1日	
39	新潟青陵大学 短期大学部	全学	2017年 7月 1日	
40	日本文理大学	全学	2012年 4月 1日	
41	東日本国際大学	全学	2020年 3月10日	○

No	大学名	締結先	締結日	新規
42	広島修道大学	全学	2017年12月6日	
43	福山市立大学	全学	2015年9月1日	
44	法政大学	ボランティアセンター	2017年4月1日	
45	松本大学	全学	2017年2月1日	
46	明治学院大学	ボランティアセンター	2011年12月1日	
47	明治大学	ボランティアセンター	2015年12月1日	
48	立教大学	総長室社会連携課	2015年7月1日	
49	立正大学	社会福祉学部	2017年11月1日	
50	了徳寺大学	全学	2013年11月1日	
51	麗澤大学	全学	2011年8月1日	
52	早稲田大学	平山郁夫記念 ボランティアセンター	2010年6月1日	
53	大学コンソーシアム ひょうご神戸	コンソーシアム	2015年4月1日	

(2) ボランティア関連講座、ボランティアプログラムの開発及び実施

①学内中心の講座やプログラム

大学内を中心としたボランティアについて学ぶ単位科目や課外講座などの開発や実施を行った。

ア. 実施大学：追手門学院大学、神田外語大学、熊本学園大学、聖学院大学、聖心女子大学、千葉大学、中央大学、東北大学、東北福祉大学、立教大学

イ. ボランティア活動の基礎知識を学ぶ講座

a. 神田外語大学

講座名：ボランティア入門講座

実施日程：2019年5月16日（木）、5月23日（木）

内容：ボランティアにこれから参加する学生向けに、特性を生かし活動の選択や体験から得られることについてセミナーを実施した。

b. 聖学院大学

講義名：ボランティア体験の言語化技法と実践

学 期：前期

内 容：受講者自身の参加したボランティア体験の振り返り方を学び、言語化技法としてのプレゼンテーションと文章化を実践した。

講義名：釜石学

学 期：前期

実施時期：2019年5月30日（木）

内 容：阪神淡路大震災から東日本大震災以降の現在に至るまでの、震災とボランティアについての講義を行った。

c. 聖心女子大学

講義名：ボランティア体験の振り返り

学 期：前期

内 容：自分がこれまでに行ったボランティア活動・社会貢献活動を振り返り、またその活動を他人に伝えることの意味を考えて言語化を行った。

d. 千葉大学

講義名：学生ボランティア実践入門

学 期：T2

内 容：日本に住む外国にルーツをもつ中高生を取り巻く社会問題を題材に、学生が実際にボランティア活動を始めるとあたり必要となる基礎的な知識や心構えを体系的に学び、実際の交流を通じて社会問題に直接触れる機会を提供した。

実施日程：2019年7月20日（土）

活 動 地：千葉県佐倉市

実施内容：外国にルーツをもつ中高生との交流とその準備を通じて、彼らが抱える実際の問題について学んだ。

e. 立教大学

講義名：ボランティア論—新しい価値の創造—

学 期：前期

内 容：ゲストスピーカーを迎えて、実際のボランティアのニーズ、活動を生かすための仕組み、ボランティア自身の気づき、活動が与えるインパクトがどのようにリンクし合っていくのかを学生が具体的にイメージしながら考察できるような授業を行った。

ウ. 特定のテーマでボランティア活動や社会課題を考える講座

a. 追手門学院大学

講義名：社会問題リサーチ演習Ⅰ

学 期：前期

内 容：社会問題の一例としてのハンセン病問題に関するゲストによる講義、長島愛生園でのフィールド・スタディを行った。

実習日程：2019年6月22日（土）

活 動 地：岡山県瀬戸内市 国立療養所長島愛生園

実習内容：療養所内と歴史館の視察を行った。また、回復者や学芸員から話を伺い、ハンセン病を取り巻く社会問題について考える機会とした。

b. 熊本学園大学

講義名：災害ボランティアスキルアップセミナー

実施日程：2020年2月5日（水）

内 容：災害後の子ども、被災者との関わり方を学んだ。

c. 聖心女子大学

講義名：グローバル共生研究Ⅴ（災害と人間－3. 11以後の社会と文化－）

学 期：前期

内 容：東日本大震災をテーマとして、災害が人間の心、社会、文化に与える影響について多様な視点から考えるとともに、災害リスクを内包している現代社会とどう向き合うかを考察した。

講義名：グローバル共生研究ⅤⅡ（〔連携講座〕日本財団学生ボランティアセンター地域コミュニティにおける課題解決プロジェクト

学 期：通年

内 容：被災地（福島県いわき市）の現状と課題を、包括性と具体性をもって理解し、「フィールド」という現場と「クラス」という講義を掛け合わせ、被災地における課題を抽出し、解決策を導き出した。

実習日程：(a) 2019年6月22日（土）～6月23日（日）

(b) 夏期休暇中（2019年8月～9月）※

※については、各個人におけるフィールドワーク

活 動 地：福島県いわき市、福島市

実習内容：(a) 地域住民への聞き取りや、現地視察を通し、被災地の現状と課題を理解し、その後の解決策提案に対する基礎知

識を得た。

(b) 解決策提案に向けた、地域住民へ追加の聞き取りや現地
の視察を行った。

d. 中央大学

講義名：現代社会分析Ⅱ

学 期：後期

内 容：「法の意味・はたらき・課題」を考えるため、フィールドワー
クとクラスでの講義やグループワークを行った。

実習日程：2019年10月19日（土）～10月20日（日）

2020年 1月18日（土）～ 1月19日（日）

活動場所：宮城県気仙沼市、仙台市

実習内容：10月の実習では震災が与えた影響と復興について学び、問
題意識を深めるワークショップを行った。その実習をふまえ
学生個人がそれぞれのテーマを設定のうえ研究し、1月
は地域の弁護士を迎えて報告会を実施した

e. 東北大学

講義名：正課授業〔後期〕オムニバス講義「東日本大震災からみる
現代社会」

学 期：後期

実施日程：2019年10月21日（月）、10月28日（月）、

12月9日（月）、12月25日（水）

内 容：「震災と避難の課題」「防災と震災伝承の課題 - 震災遺構と
語り部」「原発事故とそれ以降の地域復興の現状と課題」
「東日本大震災と子ども教育と生活の課題」についてゲスト
を招いた講義を行った。

講義名：東北大学IEHE×Gakuvo連携事業 学内研修

実施日程／参加者： 2019年7月9日（火）／30名

2020年1月7日（火）／20名

内 容：学生ボランティアリーダー及び被災地アンバサダー育成の
ため、「課外・ボランティア活動におけるセクハラ防止」
「学生団体の組織運営」というテーマで研修を行った。

f. 東北福祉大学

講義名：まちづくり論

学 期：前期

内 容：復興のまちづくりとして先駆的に取り組み、成果がみられる
宮城県岩沼市を事例として取り上げ、現地での人的交流を

通した復興のまちづくりを学んだ。

実習日程：(a) 2019年5月17日（金）

(b) 2019年6月14日（金）、6月21日（金）

活動地：(a) 宮城県岩沼市

(b) 福島県双葉郡葛尾村・田村市

実習内容：(a) 岩沼市において、現地調査を行った。

(b) 社会福祉協議会にて、まちづくりについてのヒアリングを行った。

講義名：社会貢献論

学 期：後期

内 容：様々なセクターが担う社会貢献活動について、包括的に理解するための講義を行った。

g. 立教大学

講義名：RSLープロジェクト・プランニング

学 期：前期

内 容：様々な状況の中で生きている人たちと活動を共にし、そこでの活動を通して現代社会が抱える諸課題への理解と関心を深めた。

実習日程：2019年7月31日（水）～8月13日（火）

活動地：インドネシア共和国 ジョグジャカルタ

実習内容：低所得者層の子どもを対象とした教育ワークショップを企画・実施した。

②学外中心のプログラムや講座

大学外を中心としたボランティア活動の実施や社会課題の現地調査を行い、単位科目もしくは課外活動として実施した。

ア. 実施大学：愛知淑徳大学、青山学院大学、茨城大学、追手門学院大学、熊本学園大学、聖心女子大学、摂南大学、千葉大学、中央大学、東北大学、東北福祉大学、津田塾大学、長崎大学、福山市立大学、法政大学、明治大学、松本大学、早稲田大学、大学コンソーシアムひょうご神戸

イ. 授業やゼミでの実習やボランティアセンターなどが主催したプログラム

a. 愛知淑徳大学

事業名：にじいろ☆キャンプ

活動日程：2019年11月15日（金）～11月17日（日）

参加者：18名

活動場所：岐阜県大野郡白川村

内 容：外国にルーツを持つ中高生を対象に、将来を考えるきっかけを提供するキャンプを行った。

b. 青山学院大学

事業名：ボランティアセンター学生スタッフ研修

活動日程：2019年5月18日（土）～5月19日（日）

参加者：50名

活動場所：東京都八王子市

内 容：ボランティア入門講座、昨年度の活動振り返りや今年度計画策定を行った。

c. 茨城大学

事業名：令和元年台風19号被害に係る支援活動

活動日程/参加者/場所：

10月20日（日） / 9名/茨城県常陸太田市

10月20日（日） / 10名/茨城県常陸大宮市

10月27日（日） / 3名/茨城県常陸太田市

10月27日（日） / 2名/茨城県常陸大宮市

11月 2日（土） / 2名/茨城県常陸大宮市

11月 3日（日） / 2名/茨城県常陸大宮市

内 容：被災の片づけや水に浸かった家具などの移動、土砂出しなどの作業を行った。

d. 熊本学園大学

事業名：熊本地震被災地支援スタディツアー

活動日程：2019年9月21日（土）～9月22日（日）

参加者：15名

活動場所：熊本県上益城郡益城町、阿蘇郡西原村、阿蘇市

内 容：熊本地震被災地域での住民との交流やボランティアを行った。

事業名：佐賀県におけるボランティアの実施

活動日：2020年2月16日（日）

参加者：5名

活動場所：佐賀県武雄市

内 容：令和元年8月の前線に伴う大雨による被害地域にて、復旧活動を行った。

e. 聖心女子大学

事業名：SHOC project スタディツアー

活動日程：2019年9月18日（水）～9月19日（木）

参加者：5名

活動場所：福島県いわき市

内容：現地ボランティアセンター職員による講話、コットンベイズ（人形）作り、コットンの収穫体験を行った。

事業名：USHひとづくり・まちづくりボランティア in 南相馬

活動日程/参加者：

2019年5月 4日（土）～ 5月 6日（月）/6名

6月15日（土）～ 6月16日（日）/6名

8月23日（金）～ 8月25日（日）/6名

9月10日（火）～ 9月12日（木）/5名

12月 7日（土）～12月 8日（日）/6名

2020年2月 7日（金）～ 2月 9日（日）/6名

活動場所：福島県南相馬市

内容：幼稚園児の見守りサポート、サロン活動、現地視察を行った。なお、2020年3月にも活動を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大のため、中止となった。

事業名：令和元年台風19号被害に係る支援活動

活動日程/参加者/場所：

2019年11月 8日（金）～ 9日（土）/2名

/福島県南相馬市

12月14日（土）～15日（日）/2名

/宮城県角田市・伊具郡丸森町、
福島県浪江町

2020年 2月21日（金）～23日（日）/4名

/宮城県伊具郡丸森町、福島県伊達市

内容：泥かき、清掃、炊き出しなどの作業を行った。

f. 千葉大学

講義名：持続的地域貢献活動実習

学期：通年

内容：フィールドである過疎地域の課題を発見し、実習を通じて、地域経済・社会活動の向上を図った。

活動日程/参加者：

5月11日（土）～5月12日（日）/14名

6月15日（土）～6月16日（日）/15名

7月11日(木)～7月12日(金) / 21名
9月20日(金) / 10名

活動場所：千葉県鴨川市

実習内容：フィールドワークを通して地域課題の理解を深め、地域の魅力を伝えるツアーを企画した。なお、2019年10月にも実習を予定していたが、活動場所である千葉県鴨川市が台風15号によって大きな被害を受けたため、中止となった。

g. 中央大学

事業名：令和元年台風19号被害に係る支援活動

活動日程：2020年2月18日(火)～20日(木)

参加者：14名

活動場所：長野県長野市

内容：家屋の壁はがし、泥出し、梁磨き、神輿清掃、写真洗浄、リンゴ園での農作業を行った。なお、2020年3月にも活動を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大のため、中止となった。

h. 東北大学

事業名：令和元年台風19号被害に係る支援活動

活動日程／参加者：

2019年	10月14日(月)	/ 6名
	10月18日(金)	/ 4名
	10月23日(水)	/ 3名
	10月26日(土)	/ 5名
	10月27日(日)	/ 3名
	11月 2日(土)	/ 23名
	11月10日(日)	/ 25名
	11月17日(日)	/ 23名
	11月30日(土)～12月1日(日)	/ 6名
	12月11日(水)	/ 3名
	12月18日(水)	/ 5名
	12月21日(土)～12月22日(日)	/ 20名
	12月26日(木)～12月29日(日)	/ 43名
2020年	1月11日(土)	/ 8名
	1月25日(土)	/ 6名
	2月 2日(日)	/ 3名
	2月15日(土)	/ 4名
	2月16日(日)～2月17日(月)	/ 3名

2月21日（金） / 4名

2月22日（土） / 3名

場 所：宮城県伊具郡丸森町 他

内 容：災害ボランティアセンター開設・運営支援、被災家屋の家財の運び出し、床下の泥だし・消毒、避難所での足湯、災害ゴミの運搬、防災ワークショップの実施などの活動を行った。

i. 東北福祉大学

事 業 名：令和元年台風19号被害に係る支援活動

活動日程／参加者／場所：

2019年11月13日（水） / 22名 / 宮城県伊具郡丸森町

11月25日（月） / 17名 / 宮城県伊具郡丸森町

11月27日（水） / 43名 / 宮城県伊具郡丸森町

11月28日（木） / 16名 / 宮城県黒川郡大郷町

11月29日（金） / 29名 / 宮城県伊具郡丸森町

内 容：丸森町社会福祉協議会庁舎の清掃、被災住宅の壁面石こうボード剥がし搬出、清掃、泥出し、畳の搬出などの活動を行った。

j. 長崎大学

事 業 名：ボランティア体験バス第1弾（Jリーグ・ボランティア）

活動日程：2019年5月25日（土）

参 加 者：47名

活動場所：長崎県諫早市

内 容：サッカーJ2リーグ所属のV・ファーレン長崎の試合設営を補助、高田明社長からチームや地域への思いなどについて伺った。

事 業 名：ボランティア体験バス第2弾（棚田の田植えを皆で手伝おう）

活動日程：6月2日（日）

参 加 者：26名

活動場所：長崎県長崎市

内 容：棚田での田植えを行い、地域の方から生態系を維持するための棚田の役割や過疎地の集落維持のための活動についても伺った。

k. 福山市立大学

講 義 名：専門演習Ⅱ

学 期：後期

内 容：インタビューの技法、収集、整理、分析、文章作成までの手順を演習形式で学び、フィールドワークを行った。

実習日程：2019年11月2日（土）～11月4日（月）

参加者：5名

活動場所：京都府京都市

実習内容：多文化共生の祭である東九条マダンにおいて運営補助や参加者との交流を行った。

l. 松本大学

事業名：千曲川水害支援の実施

活動日程／参加者：

2019年10月20日（日） / 7名

10月21日（月） / 9名

10月23日（水） / 22名

10月31日（木） / 6名

11月 7日（木） / 3名

11月 8日（金） / 77名

11月14日（木） / 17名

11月15日（金） / 14名

11月21日（木） / 11名

11月22日（金） / 6名

12月 8日（日） / 40名

活動場所：長野県長野市

内 容：被災家屋の泥かき、家財運び出しなどの活動を行った。

m. 明治大学

事業名：アメリカンフットボール部によるボランティア活動の実施

活動日程：2019年7月12日（金）～7月14日（日）

参加者：37名

活動場所：福島県いわき市、双葉郡川内村

内 容：農業支援や村の行事である天山祭の手伝いなどを行い、原発災害を考える講話を伺った。なお、2020年2月にも活動を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大のため、中止となった。

n. 早稲田大学

事業名：米式蹴球部によるボランティア活動の実施

活動日程：2019年7月5日（金）～7月7日（日）

参加者：67名

活動場所：福島県いわき市

内 容：農業支援、寺院の整備や海岸清掃活動を行い、地域の方々や僧侶からの講話を伺った。なお、2020年2月にも活動を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大のため、中止となった。

ウ. 企画をつくり上げ、実施する活動

a. 追手門学院大学

事業名：東北支援プロジェクト～普代村・村づくり支援プログラム～
活動日程：2019年8月18日（日）～8月26日（月）

参加者：4名

活動場所：岩手県下閉伊郡普代村

内 容：小中学生を対象とした学習支援や交流活動、村づくりに関する課題を抽出し、その解決策の検討、提案までを行った。
なお、2020年3月に予定していた実習は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、オンラインで実施した。

b. 東北大学

事業名：ボランティアリーダー・被災地アンバサダー合同学外研修
活動日程：2019年6月8日（土）～6月9日（日）

参加者：30名

活動場所：宮城県栗原市

内 容：東日本大震災被災地の8年間の変化とボランティアについて考えるワークのほか、学生として何ができるのか考えるワークを行った。

事業名：被災地アンバサダー ベイラー大学とのプロジェクト

活動日程：2019年6月28日（金）～6月29日（土）

参加者：15名

活動場所：宮城県本吉郡南三陸町

内 容：アメリカ・ベイラー大学からの留学生を対象に被災地アンバサダーである学生がツアーを実施した。

事業名：ボランティアリーダー 子どもの貧困問題解決に向けた取組みに学ぶボランティア体験プログラム

事前研修：2019年8月7日（水）

活動日程：2019年8月20日（火）～10月20日（日）

参加者：21名

活動場所：宮城県仙台市、石巻市

内 容：せんだいこども食堂、TEDICのもとで、学生がこども

支援を行った。

事業名：ボランティアリーダー 波板ボランティアツアー

活動日程：2019年9月19日（木）～9月20日（金）

参加者：5名

活動場所：宮城県石巻市

内容：地域づくりの核である商品販売の支援や足湯を行い、地域の方と交流した。

事業名：ボランティアリーダー 正課授業コラボツアー

活動日程：2019年10月20日（日）

参加者：25名

活動場所：宮城県石巻市

内容：収穫祭を手伝い、大川小学校跡地を視察した。

事業名：被災地アンバサダー 南三陸ツアー

活動日程：2019年11月16日（土）～11月17日（日）

参加者：17名

活動場所：宮城県石巻市

内容：留学生及び日本人学生を対象に震災学習・地域交流ツアーを実施した。

事業名：ボランティアリーダー 波板地域交流ツアー

活動日程：2019年11月23日（土）～11月24日（日）

参加者：5名

活動場所：宮城県石巻市

内容：シンガーソングライターのコンサートを行い、ワークショップを実施した。

事業名：ボランティアリーダー 気仙沼陸前高田スタディツアー

活動日程：2020年2月24日（月）～2月25日（火）

参加者：16名

活動場所：宮城県気仙沼市、岩手県陸前高田市

内容：被災経験のある学生が語り部となって同世代に伝えるツアーや、学生自身が2つの被災地と向き合い、今後を考えるワークショップを実施した。

c. 大学コンソーシアムひょうご神戸

事業名：「学生災害ボランティア・ネットワーク事業」学生スタッフ
研修会

活動日程：2019年4月13日（土）～4月14日（日）

参加者：6名

活動場所：兵庫県神戸市

内容：リーダーシップ、チームビルディングや災害ボランティアの
基礎知識を学ぶための講義や実習を行った。

事業名：「学生災害ボランティア・ネットワーク事業」現地ヒア
リング

活動日程：2019年6月22日（土）～6月23日（日）

参加者：8名

活動場所：岡山県倉敷市

内容：活動地域でボランティアを体験しつつ、関係者や支援者に
話を伺った。

事業名：「学生災害ボランティア・ネットワーク事業」丹波市スタデ
ィツアー

活動日程：2019年6月29日（土）

参加者：40名

活動場所：兵庫県丹波市

内容：2014年に豪雨被害のあった丹波市市島において、被害や
復興の状況を視察し、復興や地域づくりに取り組む方々と今
後を考えるワークを行った。

事業名：「学生災害ボランティア・ネットワーク事業」現地活動

活動日程：2019年8月31日（土）～9月1日（日）

参加者：31名

活動場所：岡山県倉敷市

内容：真備総仮設住宅での交流企画を実施、写真洗浄や現地の高校
生支援を行う方々とのワークを行った。

エ. 学生主体のボランティア活動の促進

a. 摂南大学

事業名：遠隔地におけるボランティア活動

活動日程：2019年8月4日（日）～9月16日（月）

参加者：12名

活動場所：岩手県釜石市、和歌山県田辺市

内容：キャンプリーダーや農業支援、地域行事の手伝いなどの活動を行った。

b. 中央大学

事業名：東北関連活動「はまぎくのつぼみ」

活動日程/参加者：

2019年6月21日（金）～6月23日（日） / 3名

8月 8日（木）～8月13日（火） / 13名

2020年2月21日（金）～2月26日（水） / 10名

活動場所：岩手県宮古市

内容：仮設住宅・災害公営住宅でのコミュニティ支援として、夏祭への参加、交流会を行った。また、防災について考えるスタディツアーも開催した。

事業名：東北関連活動「チーム女川」

活動日程/参加者：

2019年6月28日（金）～6月30日（日） / 14名

活動場所：宮城県牡鹿郡女川町

内容：被災地の課題を学ぶスタディツアー、災害公営住宅でのコミュニティ形成支援活動を行った。また、東京で物産展を行った。なお、2020年2月にも活動を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、中止となった。

事業名：東北関連活動「面瀬学習支援」

活動日程/参加者：

2019年6月7日（金）～6月10日（月） / 11名

活動場所：宮城県気仙沼市面瀬地区

内容：自治会館にて、小学生・中学生への学習支援活動や居場所づくりを行った。

事業名：熊本関連活動「チームくまもと」

活動日程/参加者：

2019年6月29日（土）～ 6月30日（日） / 20名

9月14日（土）～ 9月17日（火） / 23名

11月23日（土）～11月24日（日） / 10名

活動場所：熊本県阿蘇郡西原村

内 容：仮設住宅でのコミュニティ形成のきっかけとなるイベントを実施した。

c. 津田塾大学

事業名：ブリッジ・ザ・ギャップ ボランティア創発プロジェクト

内 容：学生が自発的に計画、実行するボランティアプロジェクトを支援した。学生から応募のあったプロジェクトを、大学とセンターで審査し、以下の2つを採択した。

(a) サディーク

活動日程：2019年10月13日（日）

～2020年1月19日（日）

協力金額：37,274円

内 容：日本にはムスリムが食事をできる場所が少なく、社会として理解も進んでいないとの問題意識から、日本在住のロヒンギャ族の方を招き、2020年1月19日に料理教室を実施した。

(b) Estrela

活動日程：2019年11月1日（金）～12月11日（水）

協力金額：0円

内 容：ブラジル系移民の子供への教育が行き届いていない現状改善のために活動をしようとして、日本語教室などを訪問してリサーチを行ったが、学生のキャパシティが足りず、実施に至らなかった。

d. 法政大学

事業名：多摩ボランティアセンター・チームたまモン

活動日程：2019年8月19日（月）～8月22日（木）

参加者：6名

活動場所：熊本県上益城郡益城町

内 容：仮設団地にて子ども向けに実験教室や学習支援、高齢者向けに茶話会を行った。なお、2020年2月～3月にも活動を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、活動が中止となった

3. 学生ボランティア派遣

本事業は、学生が社会や世界で起きている問題を「他人事」から「自分事」として捉えるようになり、行動を起こしていくための機会を提供した。

派遣先の選定については、自然災害による被災地はもちろんのこと、学生ボランティアのニーズがある地域へ学生を派遣した。

派遣にあたっては、必ずオリエンテーションと振り返りの時間を設け、参加した学生が学びを深められるようなプログラムを実施した。

(1) 学生ボランティアの派遣

①チーム「ながぐつ」プロジェクト福島

昨年度同様に、参加者募集に関するチラシ・ポスターを全国各地の大学に送付したことにより、各地方から応募があり、2020年3月時点で延べ11,901名の学生が参加した。また参加者所属大学数は、311大学となった。

活動内容としては、福島県における活動を始めた当初から継続している農業支援を中心に行った。また、震災や原発事故についてメディアを通してではなく、自分の身をもって確かめたい、知りたいという思いを持った学生が多いことから、「震災について学ぶ」プログラムとして、未だ避難生活を余儀なくされている双葉郡地域への視察や、地元住民と復興についての意見交換を積極的に行った。

<活動状況>

陣	活動日程	参加者数	大学数	活動内容
194	5月17日(金)～ 5月19日(日)	3	3	・農業支援 ・被災地視察／講話
195	5月31日(金)～ 6月2日(日)	5	5	・農業支援 ・被災地視察／講話
196	6月14日(金)～ 6月16日(日)	8	7	・農業支援 ・被災地視察／講話
197	6月28日(金)～ 6月30日(日)	10	8	・農業支援 ・被災地視察／講話
198	8月6日(火)～ 8月9日(金)	6	5	・農業支援 ・被災地視察／講話

陣	活動日程	参加者数	大学数	活動内容
199	9月5日(木)～ 9月8日(日)	10	9	・農業支援 ・被災地視察／講話
200	9月27日(金)～ 9月29日(月)	10	8	・農業支援 ・被災地視察／講話

2019年度延べ参加者数：172名 参加者所属大学総数：35大学

※チーム「ながぐつ」プロジェクト福島の延べ参加者数は「参加人数×活動日数」で算出している。

②チーム「ながぐつ」プロジェクト緊急災害支援

近年日本各地で発生する大規模な自然災害等で、助力が必要な地域において、その必要性に応じて、学生を被災地へ派遣した。

ア. 令和元年九州8月豪雨ボランティア派遣

2019年8月27日(火)～8月28日(水)にかけて九州北部を襲った記録的大雨により、佐賀県、福岡県、長崎県で大規模な冠水・浸水被害が発生した。

イ. 令和元年台風15号／19号ボランティア派遣

台風15号は2019年9月8日(日)～9月9日(月)にかけて、千葉県房総半島を中心に甚大な被害が発生した。住居被害は千葉県を中心に7万棟を超え、また、関東の広域で停電が発生。地域によっては電力の復旧に2週間以上を要した。台風15号では、停電に加え断水通信障害も住民の不安感を煽る大きな問題となった。

台風19号は、同年10月12日(土)に伊豆半島に上陸した後、関東地方を通過し、13日(日)未明に東北地方の東海上へ抜けた。関東地方や甲信地方、東北地方などでは記録的な大雨となり、甚大な被害を出し人的被害として、死者が福島県では32人、宮城県では19人となった。住家被害として、半壊以上が福島県では14,000棟近く、宮城県と長野県ではそれぞれ3,000棟以上の被害を出した。断水被害も多く、福島県いわき市では2週間、宮城県伊具郡丸森町で1か月間ほど復旧しない地域もあった。また、10月下旬には台風によって被災した地域を、再び記録的な大雨が襲った。

これらの広範囲に及ぶ甚大な被害をもたらした災害の被災地へ対応

すべく、2019年9月から2020年2月にかけて、各地へ計34回の派遣を行った。

派遣パターンとしては、多くの学生を派遣することが見込める関東圏の日帰り型、東日本大震災よりチーム「ながぐつ」プロジェクトでお世話になっている福島県いわき市への宿泊型、協定校である東北大学の学生を中心に仙台市周辺の学生参加が多く見込める日帰り型、この3パターンを基本として派遣を行った。その他、部活動やサークル活動などでお世話になっている地域へ恩返しをしたいという学生たちの思いから調整した陣も実施した。

<活動状況：佐賀>

陣	活動日程	参加者数	大学数	内容
1	9月25日(水) ～ 9月26日(木)	7	4	被災家屋床下の泥出し 床板ブラッシング、床貼り 被災者への現状調査

<活動状況：関東>

陣	活動日程	参加者数	大学数	内容
1	10月19日(土)	13	9	ビニールハウスの解体、仕分け
2	10月20日(日)	13	12	ビニールハウスの解体、仕分け
3	10月26日(土)	33	15	ビニールハウスの解体、運搬 流木・瓦礫の撤去
4	10月27日(日)	21	15	ビニールハウスの解体、運搬 流木・瓦礫の撤去
5	11月2日(土)	16	16	流木・瓦礫の撤去
6	11月3日(日)	11	10	土砂の運び出し

陣	活動日程	参加者数	大学数	内容
7	11月 9日 (土)	3	3	土砂の撤去
8	11月10日 (日)	19	2	土砂の撤去
9	11月16日 (土)	10	7	濡れた畳や家財の運び出し
10	11月17日 (日)	7	7	小学校体育館裏の土砂出し
11	11月23日 (土)	21	12	ビニールハウスの片付け、清掃
12	11月24日 (日)	5	3	ビニールハウスの解体、運搬 シート等の泥落とし 水溜まりへの砂利敷き
13	11月30日 (土)	12	8	庭の泥出し
14	12月 1日 (日)	27	11	床下の泥出し 浸水宅の清掃、窓拭き 庭の泥出し
15	2月 5日 (水)	21	1	ガラスハウスの コンクリート板・支柱撤去

<活動状況：福島>

陣	活動日程	参加者数	大学数	内容
1	11月 8日 (金) ～ 11月10日 (日)	6	6	農家支援 土砂、瓦礫の撤去

陣	活動日程	参加者数	大学数	内容
2	11月9日(土) ～ 11月10日(日)	34	1	農家支援
3	11月22日(金) ～ 11月24日(日)	21	6	農家支援 家屋清掃
4	12月6日(金) ～ 12月8日(日)	5	4	農家支援 家屋の泥かき、床板剥がし
5	12月7日(土) ～ 12月8日(日)	10	1	家財道具の運び出し 床下の泥出し 家屋清掃
6	12月13日(金) ～ 12月15日(日)	3	2	農家支援 瓦礫撤去、泥かき
7	1月17日(金) ～ 1月19日(日)	6	5	農家支援 家屋清掃・運搬
8	2月6日(木) ～ 2月9日(日)	18	1	農家支援 田んぼの流木・藁撤去
9	2月13日(木) ～ 2月15日(土)	27	2	田んぼの土砂撤去
10	2月13日(木) ～ 2月16日(日)	9	6	農家支援 水路、庭の藁撤去、泥出し、運搬

<活動状況：宮城>

陣	活動日程	参加者数	大学数	内容
1	12月1日(日)	9	1	床下の泥出し、壁剥がし 神社周辺の流木・土砂・ 瓦礫の撤去・神社拝殿の泥出し

陣	活動日程	参加者数	大学数	内容
2	12月8日(日)	14	1	神社周辺の流木・土砂・瓦礫の撤去
3	12月15日(日)	18	5	神社周辺の流木・土砂・瓦礫の撤去・神社内の整備
4	12月22日(日)	14	6	神社周辺の流木・土砂・瓦礫の撤去・神社内の整備
5	1月18日(土)	3	1	被災家屋の土砂出し
6	2月1日(土)	7	4	神社の側溝掃除 花壇整備のための丸太探し 土手の改修
7	2月9日(日)	9	3	ビニールハウスの骨組み運搬 神社の側溝泥かき 神社裏の土砂・草木撤去
8	2月23日(月) ～ 2月26日(木)	14	4	土嚢作り、花壇作り 倉庫清掃 丸太の皮剥ぎ

延べ参加者数：776名 参加者所属大学総数：78大学

(2) プラチナ未来人財育成塾チューターへの支援

プラチナ未来人財育成塾では、プラチナ社会実現に寄与する未来のリーダー育成を目的とし全国から集まった中学生72名に対して、宇宙飛行士や建築家など10名ほどによる講義とワークが行われた。森の学校・きくちにおいては、熊本県菊池市の中学生40名が、市長や研修者による講義とワークが行われた。いずれにおいても、学生は、講師と中学生をつなぐ役割を担い、中学生の学習支援や個別相談などを行った。

①第1回事前研修

活動日程：2019年6月1日(土)～6月2日(日)

場 所：東京都市大学二子玉川夢キャンパス、
国立オリンピック記念青少年総合センター

参加者：21名

所属大学数：17大学

内 容：プラチナ未来人財育成塾の基礎知識獲得と予行演習の実施

②第1回研修補講及び第2回研修

活動日程：2019年7月6日（土）～7月7日（日）

場 所：東京都市大学二子玉川夢キャンパス

参加者：24名

所属大学数：20大学

内 容：プラチナ未来人財育成塾@二子玉川のシミュレーション

③プラチナ未来人財育成塾@二子玉川

活動日程：2019年8月4日（日）～8月8日（木）

場 所：東京都市大学二子玉川夢キャンパス、
世田谷区立野毛青少年交流センター

参加者：24名

所属大学数：20大学

内 容：グループワークの進行と準備

④森の学校・きくち

活動日程：2020年2月22日（土）～2月24日（月）

場 所：熊本県立菊池少年自然の家

参加者：7名

所属大学数：7大学

4. セミナー／シンポジウム

本事業は、学生ボランティアのスキルアップやネットワーク構築を目的としてセミナーやシンポジウムを開催した。

(1) PR力コンテスト「V-1」

学生ボランティアの社会への発信力を育成するために、これまで学生サークル等の団体が各年のテーマに沿って制作した動画を募集していたが、今年度は学生個人がボランティア体験を綴った文章を募集して、優秀な作品を表彰するコンテストを行った。

募集期間：2020年1月11日（土）～2月28日（金）

審査日：2020年3月6日（金）

審査方法：書面審査

審査員：池田 真隆氏（オルタナS編集長）

泉本 亮太氏（北海道新聞記者）

杉本 昂熙氏（東洋大学、学生団体おりがみ東京支部代表）

※2020年3月6日現在

（2）ボランティア・シンポジウム

センター協定大学の連携事業に参加した学生をはじめ、全国でボランティアに取り組む学生や関心のある学生が、大学の地域・専門を超えて学びあい、ネットワークづくりにつながるシンポジウムを行った。また、G a k u v o S t y l e F u n d 2 0 1 9の活動報告会も同時に開催し、採択団体5団体が活動報告を行った。

開催日程：2019年12月7日（土）～12月8日（日）

場 所：大田区青少年交流センター（東京都大田区）

参加者：24名

参加大学：愛知淑徳大学、宇都宮大学、神奈川工科大学、金沢大学、
関西学院大学、関西大学大学院、慶應義塾大学、聖学院大学、
東北大学、東洋大学、立教大学、立正大学、麗澤大学

内 容：参加者の自己紹介と活動報告、互いの活動や悩みへのフィードバックを行うグループワーク、ボランティアを行う際の考え方やあり方について考えるトレーニングを行った。また、講師のお話を聞き、学生時代のボランティア活動とキャリア形成について考えた。

講 師：青山 聖 氏（特定非営利活動法人グッド職員）

（3）災害ボランティア養成セミナー

災害時に学生がボランティアとして迅速に活動できるよう、協力協定を締結していない大学にて、災害ボランティアの初歩を学ぶセミナーを行う予定であった。2020年3月に弘前医療福祉大学短期大学部において、実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大により、中止とした。

5. インターンプログラム

本事業は、学生目線からボランティアの支援を行うため、2019年度インターンを採用した。インターンはボランティア・シンポジウムやその他のセンター事業等の補助を行った。2019年度インターン修了者は、8名である。

活動期間：2019年4月6日（土）～2020年3月29日（日）

（1）合宿

開催日程：2019年4月20日（土）～4月21日（日）

参加者：9名

場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター

内 容：センター事業を知り、自分たちに何ができるのかを考えた。
お互いを知るワークショップなどを行い、年間計画や役割
分担を議論した。

(2) 「災害の歴史と支援の足跡を考える会」への登壇

開 催 日：2019年12月21日（土）

参 加 者：3名

場 所：宇都宮市中央生涯学習センター

内 容：東日本大震災や令和元年台風災害などの支援を行う学生が集
うセミナーにおいて、センターとしての活動を発表して、参加
者との交流を行った。

(3) a c a r e （アクア）

公 開 日：2020年3月27日（金）

協 力：B i o w o r k s 株式会社

F r i d a y s F o r F u t u r e T o k y o

※取材順

内 容：本年度のコンセプトは「C o m p a s s」。ボランティアに関心
を持った大学生が社会問題に対して行動を起こすきっかけと
して環境問題に取り組む団体に取材し、記事を作成した。

(4) 2020年度インターン募集

募集期間：2020年1月27日（月）～3月17日（火）

募集定員：8名

応募人数：8名

採用人数：5名

対 象：インターン実施期間において、大学や大学院に在籍している
こと。

選 考：応募者全員に対して、役職員による面接を実施した。適性や
性別、学年のバランスを考慮して採用を決定した。

6. 教育活動支援

本事業は、学生の成長や高等教育機関にとっての教育効果を重視し、協力協定
を締結していない大学の教職員、学生らと、年間を通じてボランティアプログラ
ムの協働開発を実施した。

(1) 常葉大学

事 業 名：令和元年台風19号被害に係る支援活動

活動日程：2019年11月9日（土）

参加者：13名

活動場所：長野県長野市

内容：被災家屋の清掃、土砂かき、雨によって流れたりんご、木材、家財の搬出などの活動を行った。

（2）宮城学院女子大学

事業名：令和元年台風19号被害に係る支援活動

活動日程/参加者/場所：

2019年11月 2日（土） / 4名/宮城県黒川郡大郷町

2019年11月13日（水） / 5名/宮城県伊具郡丸森町

11月19日（火） / 30名/宮城県伊具郡丸森町

12月 8日（日） / 5名/宮城県伊具郡丸森町

2020年 2月18日（火） / 7名/宮城県伊具郡丸森町

内容：瓦礫撤去やゴミの運び出し、子ども園での保育補助などの活動を行なった。

IV. 【その他センターの目的達成に必要な事業】

1. 情報発信

ボランティアに興味・関心を寄せる学生たちがホームページへ訪れるよう、学生が閲覧しやすいホームページの開発に力を入れた。

2019年度は、PR力コンテスト「V-1」に関するページの構築や、「a care (アクア)」の企画・構築、Gakuvo Libraryの改修、災害支援特設ページの構築等を行った。これらにより、ユーザー数が昨年度の40,799人から44,602人へ約4,000人増加した。

別表1

役員名簿

(2020年3月31日現在)

役職	氏名	現職
代表理事 (会長)	小宮山 宏	株式会社三菱総合研究所 理事長
常務理事	小西 龍治	立命館アジア太平洋大学 客員教授
〃	澤田 佳彦	公益財団法人日本財団学生ボランティアセンター
理事	赤澤 清孝	大谷大学 准教授
〃	井原 理代	香川大学 名誉教授、高松大学 教授
〃	工藤 健夫	一般社団法人SoLaBo 代表理事
〃	栗田 充治	亜細亜大学 名誉教授
〃	小島 祥美	愛知淑徳大学 准教授
〃	西尾 雄志	近畿大学 准教授
〃	二宮 雅也	文教大学 准教授
〃	吉村 充功	日本文理大学 教授
〃	渡邊 一馬	一般社団法人ワカツク 代表理事
監事	浅井 清澄	Moore 至誠監査法人 公認会計士
〃	鈴木 浩司	公益財団法人日本海事科学振興財団 常務理事

別表2

評 議 員 名 簿

(2020年3月31日現在)

氏 名	現 職
尾形 武寿	公益財団法人日本財団 理事長
清水 潔	弁護士
原田 勝広	ジャーナリスト(明治学院大学元教授)
松本 美奈	一般社団法人 Q ラボ 代表理事
村上 公一	早稲田大学 平山郁夫記念ボランティアセンター長

別表3

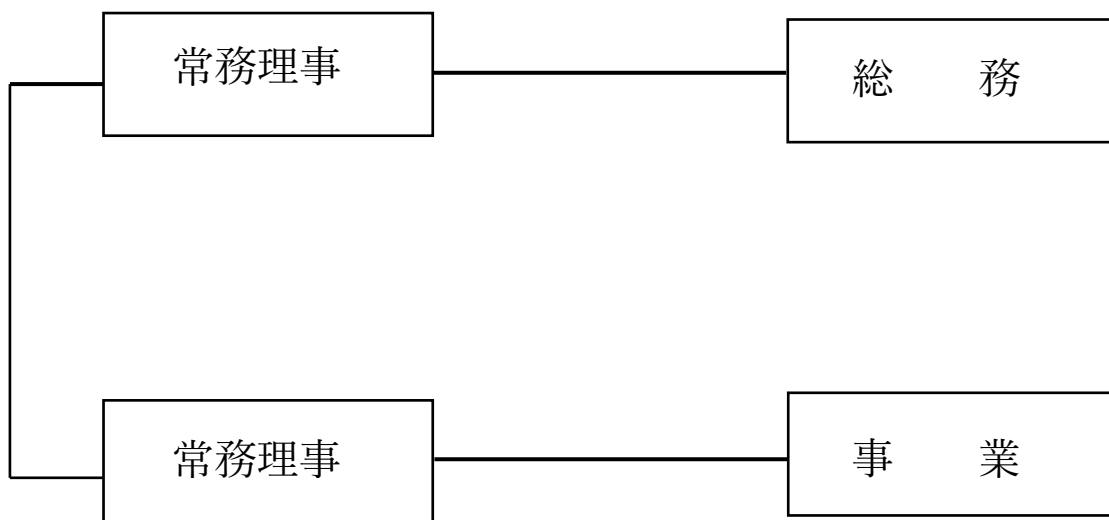
学 生 委 員 名 簿

(2020年3月31日現在)

氏 名	所 属
岩淵 汐音	千葉大学 2年
上野 聡子	東京家政大学 3年
河原 颯	東北学院大学 3年
進藤 亜美	関西学院大学大学院 修士2年
鈴木 康広	神奈川工科大学 4年
ワン ノー ファズイラ ビンティ ワン ナジユムツディン	長崎大学 2年

別表4

事務局機構図



2019年度事業報告 付属明細書

2019年事業報告は、「一般社団法人及び一般財団法人法に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2020年5月

公益財団法人
日本財団学生ボランティアセンター

前記のとおり相違ありません。

2020年5月27日

公益財団法人日本財団学生ボランティアセンター

代表理事(会長) 小 宮 山 宏

2019年度の事業報告書を監査したところ適正かつ正確であることを認めます。

監 事 浅 井 清 澄

監 事 鈴 木 浩 司

